

昨年続き、今年も斑点米カメムシ多発予報がでています。

～今年の薬剤防除は**2回**を基本に行ってください～

●斑点米カメムシ対策特集

昨年は斑点米カメムシ類の被害により斑点米が多発しました。今年もすくい取りによる斑点米カメムシ類の発生が昨年より多く確認されています。

薬剤防除と畦畔の草刈りを組み合わせて斑点米を防ぎましょう

●主なカメムシの特徴と防除概要



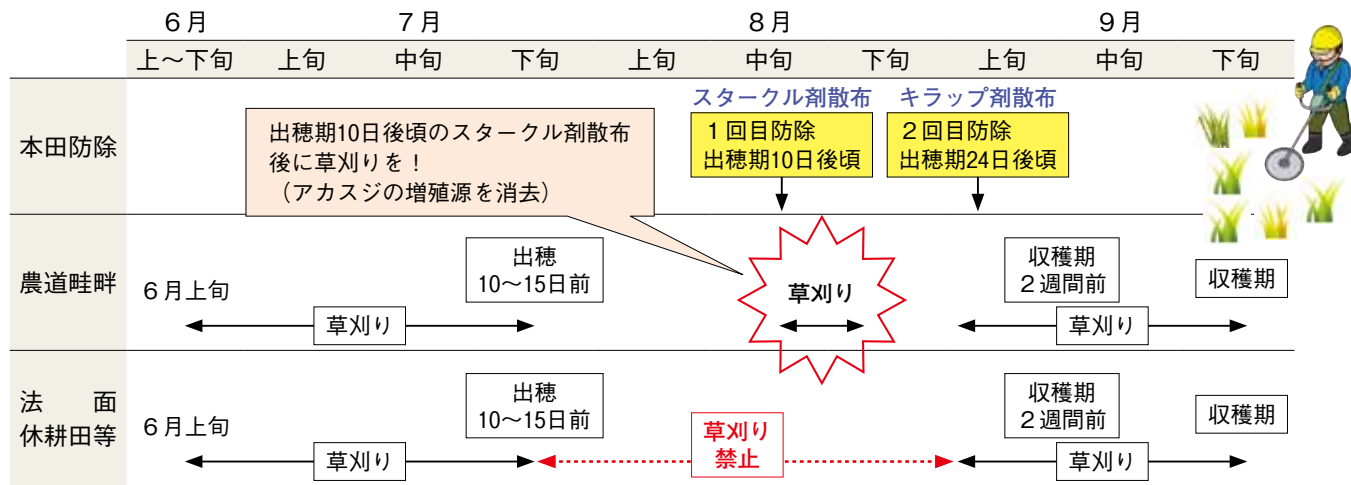
体長：成虫で4.6～6mm程度
特徴：ノビエ、ホタルイ等のカヤツリグサ科の穂に産卵する。稲にはほとんど産卵しない。



体長：成虫で5～6mm
特徴：水田内で一生を過ごし、稲の葉鞘に産卵する。

～耕種防除～

・アカスジカスミカメはノビエやホタルイの雑草の穂に産卵し増殖するため、出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布後5日以内に畦畔や農道の草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖地を無くしましょう。この期間を過ぎるようであれば草刈りは行ってはいけません。その後は収穫2週間前までは草刈りはしません。



～薬剤防除～

・通常の防除は出穂期10日後頃の1回散布を基本としますが、水田内にノビエやホタルイが発生しているほ場や牧草地、休耕田が隣接したほ場、畦畔農道に刈残しがあるほ場ではカメムシのすみかとなり1回の防除では防ぎきれませんので、出穂期24日後頃にキラップ剤を追加散布しましょう。
・散布計画の策定と薬剤の準備は早めに行いましょう。

散布時期	薬剤名	希釈倍率/散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤10	1,000倍/60～150%		
追加防除 出穂期24日後頃	キラップ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	2回以内
	キラップフロアブル	1,000～2,000倍/60～200%		



No.5 農業技術情報

平成29年8月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



水管理で登熟向上

出穂後は水管理・いもち・カメムシ対策を徹底しましょう。

今年の生育は大雨により浸水・冠水した圃場を除き、ほぼ順調に出穂期を迎えています。昨年は出穂以降の斑点米カメムシ類による被害粒発生があり、今年も注意が必要です。

今後、登熟を進める水管理と病害虫防除に重点を置いた栽培管理を行いましょう。

●水稻生育調査結果（7月25日現在 あきたこまち）

(仙北地域振興局農林部農業振興普及課)

項目	草丈 (cm)	莖数 (本/m)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD値)
本年値	74.3	23.8	11.9	40.6
平年値	73.6	23.9	12.1	37.9
平年比	101%	100%	-0.2	107%
前年値	69.0	23.9	11.8	38
前年比	108%	100%	0.1	107%

○生育調査状況

7月25日現在のあきたこまちの草丈は74.3cmで平年並（平年比101%）

莖数は481本/mで平年並（平年比101%）、葉数は11.9葉で平年並（平年比98%）となっています。

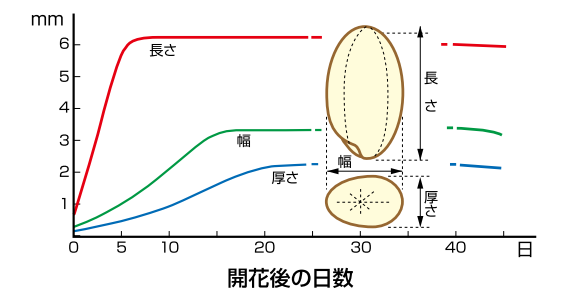
●出穂期からの水管理

①出穂当初は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は5～6cm程度の水深で湛水します。その後は2～3cmの浅水、間断かん水を行い稲を登熟させていきます（P3図参照）。

②フェーンなど乾燥した風が強く吹送る場合は、根からの吸水量より葉からの蒸散が多くなり、葉先枯れや株元の枯れ上りが進み登熟不良を招きますので、事前に予想される場合は早めに湛水にし登熟障害を回避します。

③落水の時期は、概ね出穂後30日とします。早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退により収量、品質、食味が低下する場合がありますので、用水の有無にも関係しますが、収穫に支障しない程度まで落水は遅くします（溝切跡に水を流すことも有効です）。

○開花後の日数と玄米の発達



落水時期は以下を目安に実施

○排水が悪く地下水位が高い圃場
… 出穂25～30日頃

○排水のよい圃場
… 出穂30～35日頃

(出典：星川清親 1972')



園芸施設共済 台風シーズン到来!今すぐご加入を!



注意
台風の進路が発表されたときなどの
かけ込み加入はできません。

参考)4間×10間のハウス
28万9千円の補償金額
掛金は4,260円(12ヶ月)です

●穂いもち対策

穂いもちの発生に伴う穂いもち防除について

- ・穂いもちが発生しているほ場では穂いもちに感染する可能性が非常に高くなるため穂いもち防除が必要となります。
- ・穂いもちの発生が全く認められず、周辺の発生田からの伝染の影響のないほ場では、防除の必要はありません。ただし、穂いもちが多発しているほ場が隣接している場合などは、出穂期～7日後にラブサイド剤の茎葉散布をしてください。
- ・穂いもちが発生しているほ場では出穂直前か出穂期にビーム剤を散布し、その後傾穂期にもラブサイド剤の追加防除を行い穂いもちへの感染を防ぎましょう



無人ヘリ以外の防除方法について

	薬 剤 名	希釈倍率／散布量 (10aあたり)	適 正 使 用 基 準	
			使用時期	使用回数
予防剤と治療剤の 混 合 剤	ブラシン粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで	2回以内
	ノンプラス粉剤DL			
	トライ粉剤DL	収穫14日前まで		
	ブラシンフロアブル	1,000倍／60~150%	収穫7日前まで	
ノンプラスフロアブル				
予 防 剤	ラブサイド粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで	3回以内
	ビーム粉剤DL			
	ラブサイドフロアブル	1,000~1,500倍／60~150%		
	ビームゾル	1,000倍		

※フサライドの本田での総使用回数は3回以内なので注意しましょう。
(フサライドはラブサイド剤、ブラシン剤に含まれる成分です。総使用回数に注意してください)
※ビームゾルは傾穂期以降に散布すると薬害を生じることがあるため注意が必要です。

●紋枯病

○昨年多発した圃場や、出穂後高温多湿な年は病斑が上昇しやすくなります。出穂期の発病株率が15%を超える場合は減収になりますので防除が必要です。

散布時期	薬 剤 名	剤 型				散布量・希釈倍率	備 考
		粉	液	水	フ		
出穂直前 ～穂揃期	バリダシン	○	○			粉・DL 3~4kg/10a	出穂直前の防除に重点をおき、多発が予想される場合は出穂期以降にも散布する。
	モンカット	○		○	○	液剤・水和剤 1,000倍	
	モンセレン	○			○	フロアブル 1,500倍	

●カドミウム対策

○カドミウムを吸収させないため、出穂前3週間、出穂後3週間の計6週間は常時湛水管理を行い、田面が空気に触れないよう管理してください。(田面が露出すると土壌が酸化し、カドミウムが吸収されやすくなります)。

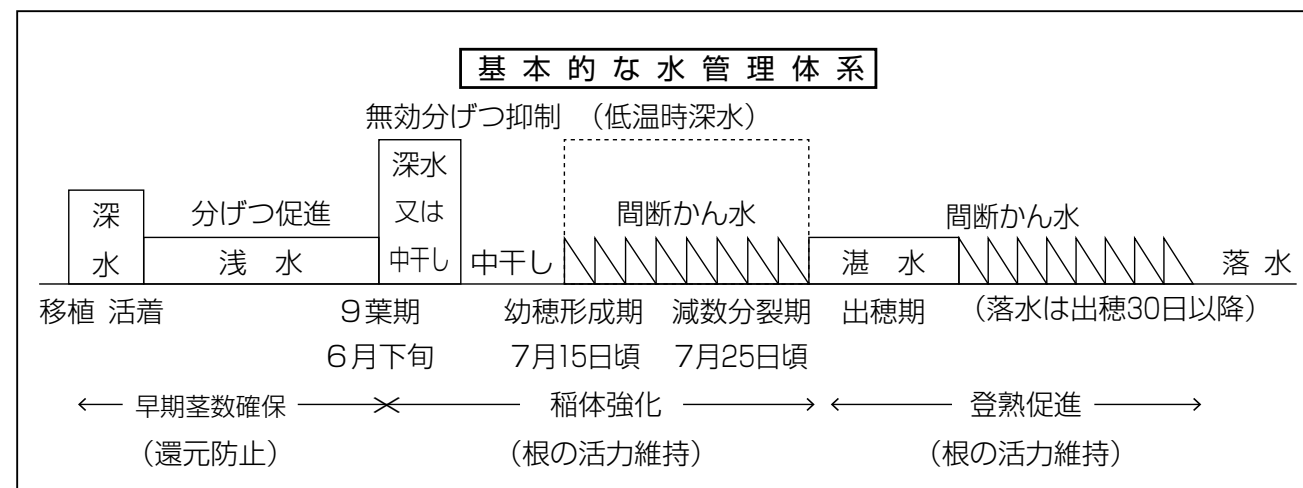
●白粒・胴割れ粒対策

気象庁より8月3日に発表された1か月予報では期間中1ヵ月は気温が高く、高温登熟となることが予想されており、白未熟の発生が心配されます。気温が30℃以上になる日は、水の入替え(夜入水、昼止水か排水)により地温を下げ、根の機能減退を防止しましょう。

○高温登熟被害粒の発生要因と技術対策

項 目		気 象 的 要 因	栽 培 的 要 因	技 術 対 策
白未熟粒	乳白 心白	出穂後4~20日頃の高温	籾数過多	籾数制御 夏期常時湛水
	背白 腹白	出穂後16~24日頃の高温	登熟後半の肥切れ	穂肥 夏期常時湛水
充実度不足粒		登熟期間の高温	登熟期の肥切れ	穂肥
胴割れ粒		出穂10日間の高温	登熟期の肥切れ 早期落水 刈り遅れ、過乾燥	穂肥 夏期常時湛水 適期刈り取り、2段乾燥

●基本的な水管理体系



●大雨浸水・冠水圃場対策

- ①7月22、23日の大雨により冠水等被害に遭われた圃場については、泥等が圃場に堆積し土中に空気が入り難くなっており、間断灌水により透水性の回復を図りながら、根に水と酸素を供給します。
- ②稲体が弱って、いもち病や紋枯れ病にかかりやすくなっています。圃場を見回り、予防剤・治療剤を組み合わせ、病気が拡大しないようにします。また、用水が確保されていない圃場では、紋枯れ病の病斑上昇が心配されます。早めの防除を行います。
- ③浸水・冠水により、地際にいる虫が上位葉に移動しています。葉が食べられたりカメムシ被害が拡大する見込みですので、適期にカメムシ防除(可能な限り2回防除)を行い斑点米を防止します。
- ④圃場に流入した草木・土砂等については、収穫を前にできる限り排出・除去をするか、目印を立てて、コンバインの故障や玄米に異物が混入しないよう対策を講じてください。